

1. 策定背景・目的

東中野駅周辺において、西口側では駅前広場等の整備が進み、駅のバリアフリー化が実現していますが、東口側については駅およびその周辺もバリアフリー化が未だ進んでおらず、地域住民等から多くのバリアフリー化に関する要望が寄せられてきました。駅舎等のバリアフリー化は、周辺の土地を有効に活用することが求められることから、駅周辺のまちづくりの取り組みの中で実現する必要があります。

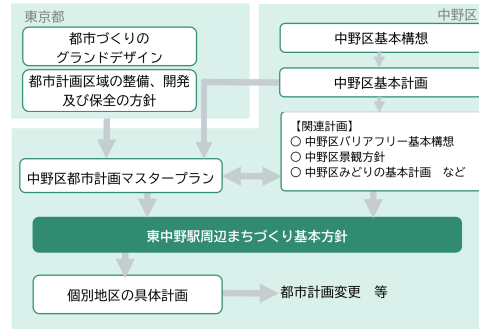
また、東中野駅東口周辺においては、「駅とまちが一体的な空間として形成されていない」、「駅前にふさわしい土地利用が図られていない」等の課題もあります。

東中野駅東口周辺まちづくり基本方針（以下「本方針」といいます。）は、駅舎等のバリアフリー化を含め東中野駅東口周辺地域が抱える諸課題を解決し、まちの魅力向上を図るためのまちづくりの基本的な考え方を整理するものです。

本方針は、東中野駅東口周辺地域のまちの将来像を提示し、その実現に向けたまちづくりの方針を取りまとめます。

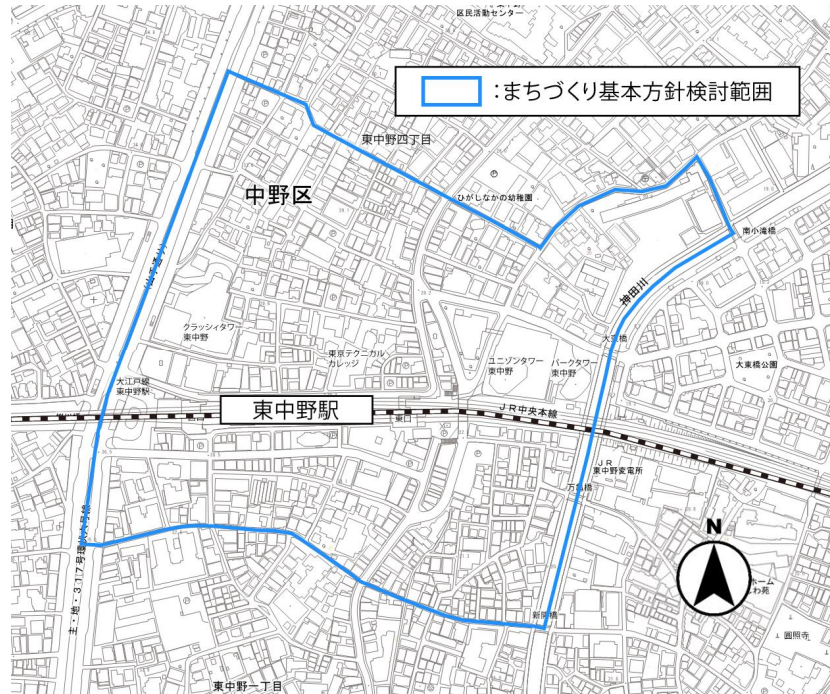
2. 本方針の位置づけ

本方針は、東京都が策定する計画をはじめとする上位計画や関連計画等を踏まえ、東中野駅東口周辺地域のまちの将来像を示すものです。策定後は、必要に応じて個別の具体的な計画へとつなげていきます。



3. 検討対象範囲

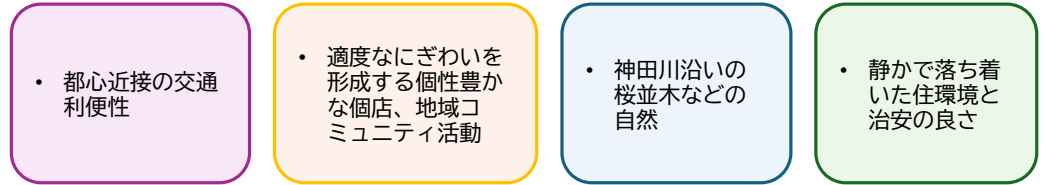
本方針の対象地域は中野区東中野一丁目、四丁目および五丁目地域内とし、検討範囲は東中野駅東口を中心に概ね100～200m程度の範囲を基本とします。なお、範囲の設定にあたっては、道路等による地形的な区切りを考慮し、旧中野区立第三中学校跡地も含めるものとします。



4. 東中野らしさ

令和7（2025）年度に、地域の方々を対象に「東中野らしさ・アピールポイント」についてアンケート（自由記述式）を実施しました。

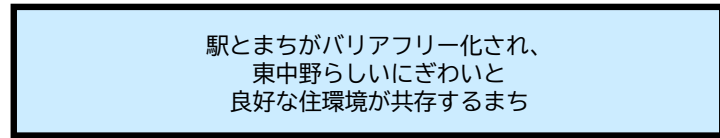
頂いた230件のご意見を集約し、4つに分類しました。



5. まちづくりの方針

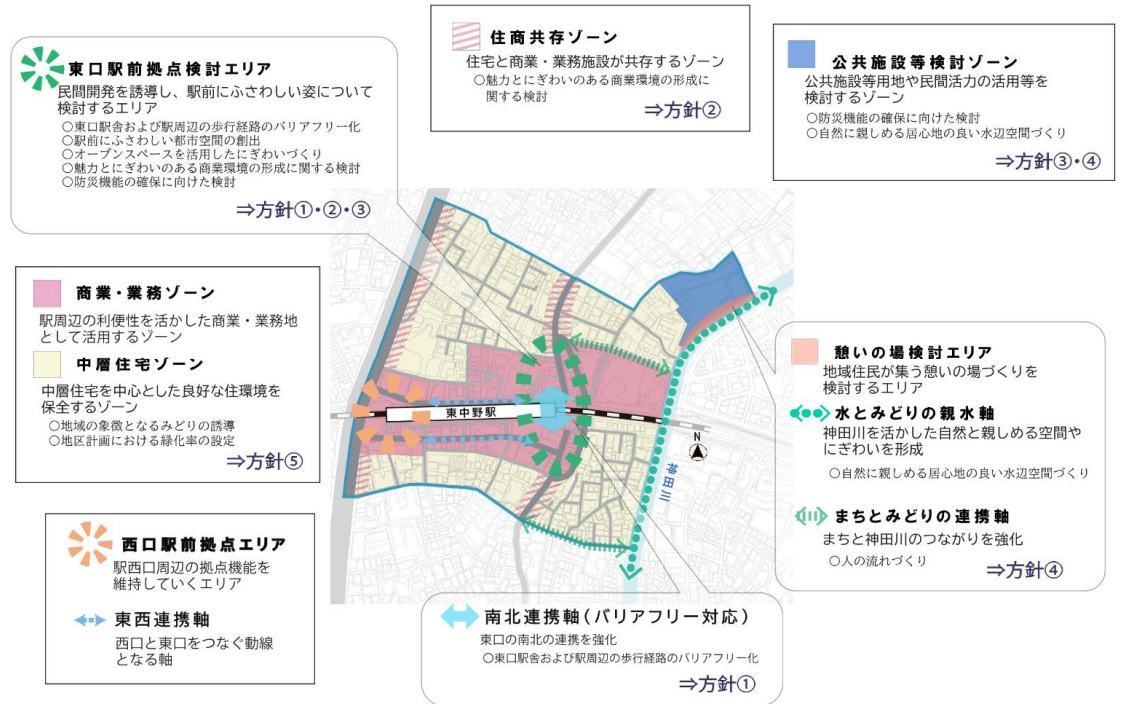
(1) 目指すべきまちの将来像

まちの現状や地域住民等の意見をもとに、今後目指すべきまちの将来像を設定しました。



(2) まちづくり方針図

目指すべきまちの将来像を踏まえ、次のとおりまちづくりの方針図を示します。



(3) 各方針と実現に向けた取り組み

目指すべきまちの姿の実現に向けて、現状の課題解決に加え、まちの魅力をより向上させるための方針と具体的な取り組み内容を示します。

方針①

誰もが安全に通行できるまちづくり

- ▶ 東中野駅東口周辺のバリアフリー化を実現して、誰もが移動しやすく安全に通行できるまちを目指します。



○東口駅舎および駅周辺の歩行経路のバリアフリー化

東口駅舎のバリアフリー化について、鉄道事業者を始めとした関係者と実現に向けた方策について検討を進めていきます。

また、駅前広場空間の整備と併せて、東中野駅東口周辺の地形上の段差についてもバリアフリー化を図ります。

さらに、駅を挟んだ南北のバリアフリー経路の確保に向け、民間開発による一体的な整備も視野に入れながら、関係者と検討を進めます。

東口と西口をつなぐ東西連携軸を踏まえ、東西の回遊性・安全性を高める歩きやすいまちづくりを検討します。

← 図 バリアフリー経路（想定）

方針②

東中野らしいにぎわいが生まれるまちづくり

- ▶ 誰でも安心して気軽に立ち寄れる居心地の良い空間を創出し、そこでの多様な人々の活動により、東中野らしい交流と暮らしの中での適度なにぎわいが生まれるまちを目指します。

○駅前にふさわしい都市空間の創出

東口駅前拠点検討エリアでは土地の高度利用化を図り、民間の都市開発等を誘導します。その際に、人々が集まることができるオープンスペースやゆとりある歩道状空地の確保、低層部への商業・業務機能の導入など、誰でも安心して気軽に立ち寄れる居心地の良い都市空間の創出に向けた検討を進めます。

○オープンスペースを活用したにぎわいづくり

民間開発等により創出されるオープンスペースについては、東中野の文化の一つであるお祭りなどの地域活動や、東中野らしい適度なにぎわいづくりなどに取り組むことを検討します。

駅前空間をイベントに活用している例 →



○魅力とにぎわいのある商業環境の形成に関する検討

主に駅東側道路沿いで、魅力ある街並みの形成について商店街を中心とした地域の方々と検討します。

方針③

安全で安心して過ごせるまちづくり

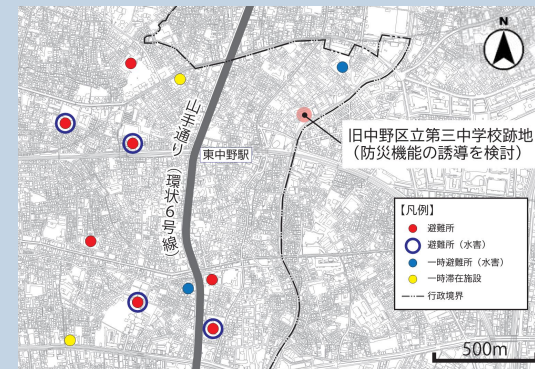
- ▶ 災害時にも避難や一時滞在できる場所を確保し、住む人だけでなく訪れた人も安全・安心に過ごせるまちを目指します。

○防災機能の確保に向けた検討

旧中野区立第三中学校が避難所であった経緯から、跡地活用の検討の際には防災機能の誘導について検討していきます。

また、東口駅前拠点検討エリアで民間開発が行われる際は、災害発生時に帰宅困難者を受け入れる、一時滞在施設の誘導を検討します。

図 防災機能の誘導場所（想定）→



方針④

水辺を活かしたまちづくり

- ▶ 今ある魅力をさらに高めるために、地域住民の憩いの場である神田川沿いを、景観に配慮した質の高い空間にするとともに、休憩スペースや公園などを確保して、より居心地のいい水辺空間の形成を目指します。

○自然に親しめる居心地の良い水辺空間づくり

神田川沿いは東中野地域の中でも自然豊かな場所となっており、地域住民等にとっても憩いの場となっています。春には桜が咲き、区内でも有数のフォトスポットとして知られていますが、今後はその魅力をさらに高めるために、区有施設の敷地の一部を活用して、河川沿いに公園や休憩場所などの桜に親しめる場づくりを検討します。

○人の流れづくり

東中野駅東口周辺から神田川方面に人の流れを誘導します。にぎわいを広げていくために、景観やまちのコンセプトに配慮した誘導サイン（案内表示）を設置することを、民間開発事業者とも連携しながら検討します。

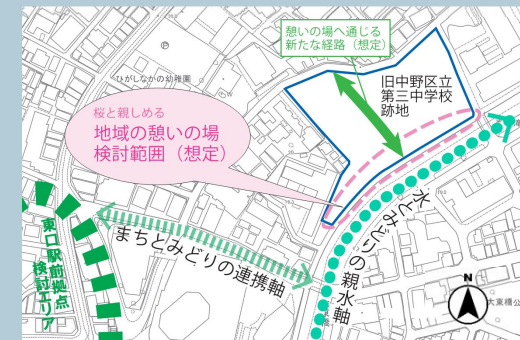


図 旧中野区立第三中学校周辺

方針⑤

都心に近いながらも良好な市街地が広がるまちづくり

- ▶ 駅前通りを中心ににぎわいを生み出しつつ、後背地に関してはこれまでの良好な住環境を維持することにより、都心に近く利便性の高い、住み心地の良いまちを目指します。
- ▶ また、民間の都市開発等が行われる際には良質な植栽を設けるなど、まちなかのみどりを増やすための取り組みも検討します。

○質の高いみどりの誘導

東口駅前拠点検討エリアで一定規模以上の民間都市開発等が行われる際には、量を増やすだけでなく質の高い緑化による、みどり豊かで潤いのある快適な都市環境の創出を誘導します。

○地区計画における緑化率の設定

中野区では、環境共生型のまちづくりとして、地区計画や任意のまちづくり計画に脱炭素の推進に資する方針等を位置付けることを目指しています。今後、地域からの発意を受けて地区計画が策定される場合は、地域の実情や意向を踏まえた上で緑化率等の基準を設け、まちなかのみどりを増やす取り組みを進めていきます。



民間都市開発により創出されたみどり（中野セントラルパーク）